

会社の数字に強くなろう！
～財務諸表の読み方・活かし方～
【無料セミナー】

簿記をお持ちの方のステップアップに
～ビジネス会計検定試験のススメ～

財務諸表の種類

- ・貸借対照表
- ・損益計算書
- ・キャッシュ・フロー計算書
- ・株主資本等変動計算書
- ・個別注記表
- ・附属明細書

1) 貸借対照表

貸借対照表

資 産	負 債
	純資産

期末時点での財政状態を表示

2) 損益計算書

損益計算書

収 益	×××
費 用	－ ×××
利 益	×××

一会計期間の経営成績を表示

3) キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書

収 入	×××
支 出	－ ×××
増減額	×××

一会計期間の収入と支出の状況を表示

貸 借 対 照 表

x 3年3月31 日

1年以内に現金化されるもの (すぐ支払いにまわせるお金)	(資産の部)			(負債の部)			1年以内に 払わなければいけないお金
	流動資産			流動負債			
	現金及び預金	149		支払手形	211		
	受取手形	101		買掛金	155		
	売掛金	158		短期借入金	332		
	有価証券	837		未払金	283		
1年以内に現金化されないもの またはその気のないもの (すぐには支払いにまわせないお金)	商品	141		預り金	154		
	流動資産合計	1,386		流動負債合計	1,135		
	固定資産			固定負債			
	1 有形固定資産			社債	531		
	建物	177		長期借入金	202		
	構築物	36		退職給付引当金	150		
	機械装置	227		固定負債合計	883		
	車両運搬具	71		負債合計	2,018		
	工具器具備品	131		(純資産の部)			
	土地	133	775	株主資本			
	2 無形固定資産			1 資本金	620	株主からの出資額 (もとで)	
	特許権	20		2 資本剰余金	671		
	ソフトウェア	30	50	3 利益剰余金		留保利益 (もうけ)	
3 投資その他の資産			利益準備金	54			
投資有価証券	1,494		繰越利益剰余金	482	536		
長期貸付金	140	1,634	株主資本合計	1,827			
	固定資産合計	2,459	純資産合計	1,827			
	資産合計	3,845	負債・純資産合計	3,845			

「期末時点での財政状態」を表示

損益計算書

自 x 2 年 4 月 1 日 至 x 3 年 3 月 31 日

販売した商品の代金	→	I 売上高		3,895	
販売した商品の原価	→	II 売上原価		3,190	
			売上総利益	705	← 商品を販売して得た利益
本業における販売や管理費用	→	III 販売費及び一般管理費			
		給料	205		
		広告宣伝費	95		
		旅費交通費	50		
		支払家賃	50		
		水道光熱費	51	451	
			営業利益	254	← 本業による利益 (営業活動の成果)
反復・継続的（経常的）な 財務・投資活動による収益	→	IV 営業外収益			
		受取利息	2		
		受取配当金	135		
		有価証券利息	4	141	
反復・継続的（経常的）な 財務・投資活動による費用	→	V 営業外費用			
		支払利息	15		
		有価証券売却損	43	58	
			経常利益	337	← 本業と副業による利益 (経営努力の成果)
本業でも副業でもない 当期限りの臨時的な収益	→	VI 特別利益			
		固定資産売却益	34	34	
本業でも副業でもない 当期限りの臨時的な費用	→	VII 特別損失			
		災害損失	92	92	
			税引前当期純利益	279	← 1 年間でもうけた利益
			法人税、住民税及び事業税	39	
			当期純利益	240	← 税金支払い後の利益

「一会計期間の経営成績」を表示

キャッシュ・フロー計算書

自 x 2 年 4 月 1 日 至 x 3 年 3 月 31 日

営業活動

- ・商品の仕入れ、販売
- ・人件費の支払い
- ・営業経費の支払い 等

投資活動

- ・設備投資
(土地、建物、設備、備品の購入)
- ・資金運用
(有価証券の購入、貸付) 等

財務活動

- ・資金調達
(銀行借入、株式・社債の発行)
- ・借入金返済 等

I 営業活動によるキャッシュ・フロー

1. 営業活動からの収入	500
2. 営業活動への支出	△250

営業活動によるキャッシュ・フローの増減額	250	
----------------------	-----	--

← 営業活動による
キャッシュの増減

II 投資活動によるキャッシュ・フロー

1. 投資活動からの収入	150
2. 投資活動への支出	△350

投資活動によるキャッシュ・フローの増減額	△200	
----------------------	------	--

← 投資活動による
キャッシュの増減

III 財務活動によるキャッシュ・フロー

1. 財務活動からの収入	300
2. 財務活動への支出	△200

財務活動によるキャッシュ・フローの増減額	100	
----------------------	-----	--

← 財務活動による
キャッシュの増減

IV 現金及び現金同等物の当期増減額	150	
--------------------	-----	--

V 現金及び現金同等物の期首有高	350	
------------------	-----	--

VI 現金及び現金同等物の期末有高	500	
-------------------	-----	--

「一会計期間のキャッシュ（現金及び現金同等物）の増減」を表示

財務諸表分析（１）

損益計算書 （百万円）

売上高	389,500
売上総利益	70,500
営業利益	25,400
経常利益	33,700
税引前当期純利益	27,900
当期純利益	24,000

1. 売上高営業利益率（営業利益率）

$$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} = \frac{\quad}{\quad} \approx \quad \%$$

どれだけコストをかけずに本業で儲けているか、すなわち、営業成績の良否を判断することができる

2. 売上高経常利益率（経常利益率）

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} = \frac{\quad}{\quad} \approx \quad \%$$

どれだけコストをかけずに経営できているか、すなわち、経営状況の良否を判断することができる。

売上高利益率は、絶対的な指標ではなく相対的な指標です。前期以前の数値や、同規模・同業他社と比較することにより、利益を稼ぐ力を判断します。

日本の企業の場合、業績の判断には伝統的に経常利益や経常利益率が用いられてきましたが、近年では、営業利益や営業利益率に着目することも重要になってきています。

この他にも、売上高売上総利益率（粗利率）や、売上高当期純利益率などがあります。

財務諸表分析（２）－ 安全性の分析

貸借対照表 (百万円)

流動資産 138,600	流動負債 113,500
	固定負債 88,300
固定資産 245,900	純資産 182,700
384,500	384,500

1. 流動比率

$$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} = \frac{\quad}{\quad} \approx \quad \%$$

流動比率は、流動負債を返済するのに十分な流動資産があるかどうかを判断する指標です。130%から140%程度でも良好な状況と判断されます。

2. 自己資本比率

$$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} = \frac{\quad}{\quad} \approx \quad \%$$

自己資本比率は、総資本に対する自己資本の割合を見る指標です。おおむね上場企業は40%台ですが、中小企業は10%～20%台です。自己資本比率が高ければ、返済を要しない資金の割合が高いことになります。

3. 固定比率

$$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}} = \frac{\quad}{\quad} \approx \quad \%$$

固定比率は、固定資産への投資が返済義務のない純資産でまかなわれているかどうかを判断する指標です。小さいほうが望ましいとされ、100%以内であれば固定資産が返済を要しない資金源泉でまかなわれていることになります。

財務諸表分析（３）－ 収益性の分析

貸借対照表 (百万円)

流動資産 138,600	流動負債 113,500
	固定負債 88,300
固定資産 245,900	純資産 182,700
384,500	384,500

損益計算書 (百万円)

売上高	389,500
売上総利益	70,500
営業利益	25,400
経常利益	33,700
税引前当期純利益	27,900
当期純利益	24,000

発行済株式数 452 百万株、1 株当たり株式時価 1,000 円

1. 総資本経常利益率（ROI） Return on Investment

$$\frac{\text{経常利益}}{\text{総資本}} = \frac{\quad}{\quad} \equiv \quad \%$$

総資本経常利益率は、総資本（投下している資金総額）で経常利益をどれだけ稼いでいるかを示す指標です。絶対的なものではなく、競合他社や前期などと比較して収益性を判断します。

2. 自己資本当期純利益率（ROE） Return on Equity

$$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}} = \frac{\quad}{\quad} \equiv \quad \%$$

自己資本当期純利益率は、自己資本（株主からの出資）に対する収益性を判断する指標です。10%以上が1つの目安となりますが、絶対的なものではなく、競合他社や前期などと比較して企業の収益性を判断します。

財務諸表分析（４）－ １株当たり分析

1. １株当たり当期純利益（EPS） Earnings per Share

$$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}} = \frac{\quad}{\quad} \quad \text{円}$$

１株当たり当期純利益（EPS）は、株価収益率（PER）を計算するための基礎指標となります

2. 株価収益率（PER） Price Earnings Ratio

$$\frac{\text{１株当たり株式時価}}{\text{１株当たり当期純利益}} = \frac{\quad}{\quad} \quad \text{倍}$$

株価収益率（PER）は、企業の利益水準に対して株価が相対的に高いか低いかを判断する目安となる指標です。14 倍から 20 倍が標準的とされますが、成長分野の企業の PER は将来の成長を見越して高めになる傾向があります。

3. １株当たり純資産（BPS） Book-value per Share

$$\frac{\text{純資産}}{\text{発行済株式数}} = \frac{\quad}{\quad} \quad \text{円}$$

１株当たり純資産（BPS）はその企業の最低株価の目安となり、基本的に株価はこの金額を下回らないとされます。１株当たり純資産（BPS）は、株価純資産倍率（PBR）を計算するための基礎指標となります。

4. 株価純資産倍率（PBR） Price Book-value Ratio

$$\frac{\text{１株当たり株式時価}}{\text{１株当たり純資産}} = \frac{\quad}{\quad} \quad \text{倍}$$

株価純資産倍率（PBR）は、企業の資産・財産の水準に対して株価が相対的に高いか低いかを判断する目安となる指標です。１倍を大きく上回ると割高、１倍付近あるいは下回った場合は割安であると判断されます。

実践！財務諸表分析！

下記に示す2社について、財務諸表分析をしてみましょう。

< A 社 >

貸借対照表 (千円)

流動資産 1,396,658	流動負債 1,145,573
	固定負債 1,034,438
固定資産 1,897,356	純資産 1,114,003
3,294,014	3,294,014

< B 社 >

貸借対照表 (千円)

流動資産 1,098,344	流動負債 798,196
	固定負債 810,232
固定資産 1,268,970	純資産 758,886
2,367,314	2,367,314

損益計算書 (千円)

売上高	3,166,771
売上総利益	787,124
営業利益	226,493
経常利益	223,899
税引前当期純利益	169,552
当期純利益	83,581

損益計算書 (千円)

売上高	1,982,435
売上総利益	572,914
営業利益	87,957
経常利益	84,091
税引前当期純利益	75,698
当期純利益	24,434

発行済株式数 1,506 千株
1株当たり株式時価 523 円

発行済株式数 1,655 千株
1株当たり株式時価 415 円

1) 売上高営業利益率

A 社 %

B 社 %

2) 売上高経常利益率

A 社 %

B 社 %

3) 流動比率

A 社 %

B 社 %

4) 自己資本比率

A 社 %

B 社 %

5) 総資本経常利益率 (ROI)

A 社 %

B 社 %

6) 自己資本利益率 (ROE)

A 社 %

B 社 %

7) 株価収益率 (PER)

A 社 倍

B 社 倍

8) 株価純資産倍率 (PBR)

A 社 倍

B 社 倍

1) 売上高営業利益率

A社 **7.2 %**

B社 **4.4 %**

売上高に対する利益の割合はA社の方が良い状況です。A社はB社よりもコストをかけずに経営していることがわかります。

2) 売上高経常利益率

A社 **7.1 %**

B社 **4.2 %**

流動比率から、B社の方がA社よりも短期の支払い能力が高いことがわかります。

3) 流動比率

A社 **121.9 %**

B社 **137.6 %**

自己資本比率は、50%を超えることが理想的であるといわれることがあります。しかし銀行借入れが多額で自己資本比率が低い日本企業においては、この両社の値は比較的高い水準だといえます。

4) 自己資本比率

A社 **33.8 %**

B社 **32.1 %**

5) 総資本経常利益率 (ROI)

A社 **6.8 %**

B社 **3.6 %**

投下総資本に対する利益効率に関しては、A社の方がB社より優れているといえます。

6) 自己資本利益率 (ROE)

A社 **7.5 %**

B社 **3.2 %**

自己資本に対する利益効率に関しては、A社の方がB社より優れているといえます。

7) 株価収益率 (PER)

A社 **9.4 倍**

B社 **28.1 倍**

株価収益率から、A社の株価は割安、B社の株価は割高といえます。

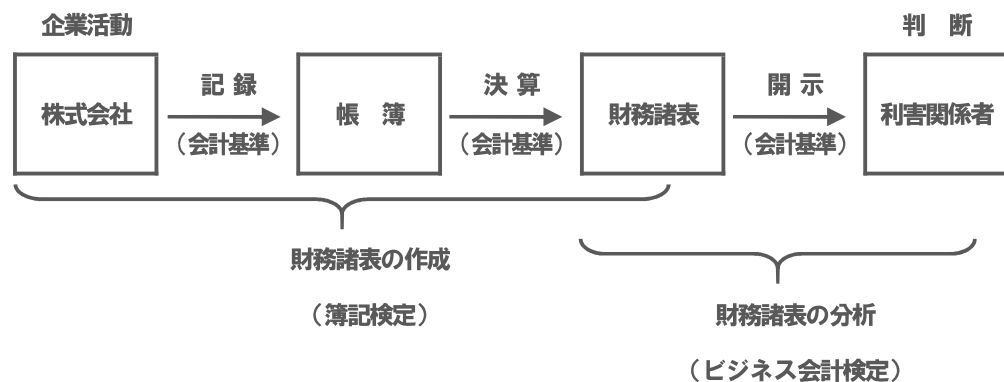
8) 株価純資産倍率 (PBR)

A社 **0.7 倍**

B社 **0.9 倍**

株価純資産倍率は1倍が下限の目安となりますが、日本では実際には1倍を下回っている企業が多い状況で、その点を考慮するとA社の株価は割安、B社の株価は割高であるといえます。

「ビジネス会計検定試験」のご紹介



開示された財務諸表から企業の状況を解釈して、各種の意思決定や判断を行う財務諸表分析と、その際に必要な会計基準を学習するのが「ビジネス会計検定試験」です。

本セミナーでは、多様な分析体系の指標のうち、ごく基本的な指標に絞ってご紹介させていただきました。

財務諸表の分析方法を学ぶことは、企業人だけでなく、企業の情報を知ろうとする一般の人々にとっても有用性がきわめて高いものです。

これを機会に、ビジネス会計検定試験に興味をお持ちいただき、学習を進めていただけることを期待しています。